

各位

上場会社名 株式会社 家族亭  
 代表者 代表取締役社長 乾 光宏  
 (コード番号 9931)  
 問合せ先責任者 執行役員 経理部長 関口 弘一  
 (TEL 06-6227-6030)

## 業績予想の修正及び特別損失の計上並びに合理化策に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年2月9日に公表した平成23年12月期(平成23年1月1日～平成23年12月31日)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成23年12月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,574	80	90	7	1.00
今回修正予想(B)	4,154	△31	△23	△267	△37.98
増減額(B-A)	△420	△111	△113	△274	
増減率(%)	△9.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	4,372	53	57	△7	△1.05

平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	530	560	230	32.71
今回修正予想(B)	8,921	331	359	18	2.56
増減額(B-A)	△1,079	△199	△201	△212	
増減率(%)	△10.8	△37.5	△35.9	△92.2	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	9,194	342	350	122	17.44

修正の理由

#### 1. 業績予想

(1) 本年3月11日に発生した東日本大震災と福島原発事故は、第1四半期の業績に影響を与える大きな要因となりましたが、今後の業績にも引き続き影響を与えものと予想されます。特に関東以北にある直営店、計40店(全体の約35%)の前年売上対比は、4月には80～90%に回復し、回復基調は6月頃まで続く予想されますが、7月～8月には電力不足による計画停電の影響で再度大幅に低下する可能性が予想されます。日本全体としての沈滞ムードの影響により、FC加盟店開発のスピードに幾分のブレーキがかかっていることや、アジアを中心とする海外諸国においては、日本食の安全性に対する不安が、その売上を低下させる要因となっています。

(2) このような環境の下で、当社はこれまでの事業戦略を基本的に踏襲しながら、一方で今年度の利益を確保しつつ、将来に向けた利益成長性を強化するために、経営体質を更に強固にする抜本的な、スリム計画を断行することと致しました。

#### a) 不採算店舗の閉店

直営の不採算店舗13店を早急に閉店します。これらは、最近の市場・競合環境の変化等により店舗採算性が低く、販促強化策を実行してきたにもかかわらず十分な効果を出すことが出来なかった店舗であります。今回の不採算店舗閉店は、不振店処理を先取りし、事業全体の利益性を向上させる積極的施策です。これにより、後述のとおり平成23年12月期において188百万円の特別損失が発生します(第1四半期に店舗閉鎖損失引当金繰入額を計上済み)が、同期においては41百万円の営業利益増加を期待できます。

#### b) 店舗賃料の削減

直営の全店舗を対象に、賃料値下げ交渉を実施します。貸主の状況により具体的な値下げ額等は今後の交渉によりますが、可及的速やかに実行致します。

#### c) 本社関連人件費・経費の削減

本部機能に関連する人件費と経費を、それぞれ平均して3%及び5%削減します。ただし、事業戦略を推進していくための重要機能である、FC管理と海外事業推進のための人員は強化していきます。

d) 直営事業の見直し

従来どおり、QSCの向上と効果的な販促活動により売上げを維持・拡大するとともに、各運営コスト項目の削減をさらに徹底させます。コスト削減の重点は、関東の店舗売上がこれから夏にかけて、回復せず、また一時的に急降下した場合に、人員稼働のムダをどれだけ最小化するかにあります。このため、当社は関東勤務社員の一部を関西の店舗に一部異動することも含め、対応策を積極的に採っていきます。

当社は上述の経営環境変化の影響と、この対策としてのスリム化計画の予想効果(本年度分)とを勘案し、修正後の第2四半期売上4,154百万円、営業損失31百万円、経常損失23百万円、特別損失221百万円、四半期純損失267百万円と予想し、修正後の年間売上8,921百万円、営業利益331百万円、経常利益359百万円、特別損失251百万円、当期純利益18百万円と予想します。

(注)上記業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 特別損失の計上について

上記不採算店舗の閉店に伴い下記の特別損失を店舗閉鎖損失引当金繰入額として、第1四半期決算に計上しております。

(特別損失の内訳)

固定資産廃却損	88百万円
店舗閉鎖損失	100百万円
合計	188百万円

3. 平成23年2月9日発表の中期事業計画について

現時点で中期事業計画のベースとなる、内外のFC店舗拡大を主軸とする基本戦略には変更はございません。今後5年間のうち、当期を含めた当初の3年は震災の影響等により、計画した利益にマイナスの圧力が予想されますが、上記スリム化計画の確実な実行により、対計画の利益減少幅をより少ないものとし、2014年には当初の計画利益数値の実現がほぼ可能となる予定です。

以上